

○ 曲輪群の出土遺物

中国や国内(瀬戸・美濃地方)産の陶磁器や素焼きの皿(かわらけ)など 250 点以上が出土しました。



○ 今回の発掘調査でわかったこと

伝「台所」では、庭園とそれを眺める建物と考えられる遺構を確認しました。土岐氏は水を湛(た)える白色の池と黒色の玉石という色彩を強く意識した庭園を造り、美濃国の政治を行うかたわら、時に来客をもてなし、時に鷹(たか)の画を描くなど、権力者として、また文化人として優雅に過ごしていたとみられます。

曲輪群では、輸入品の茶入(ちゃいれ)や特注品の花器(かき)などを含む陶磁器類が 250 点以上出土し、土岐氏に仕えた重臣のような、かなり地位の高い人物が居住していた可能性が考えられます。

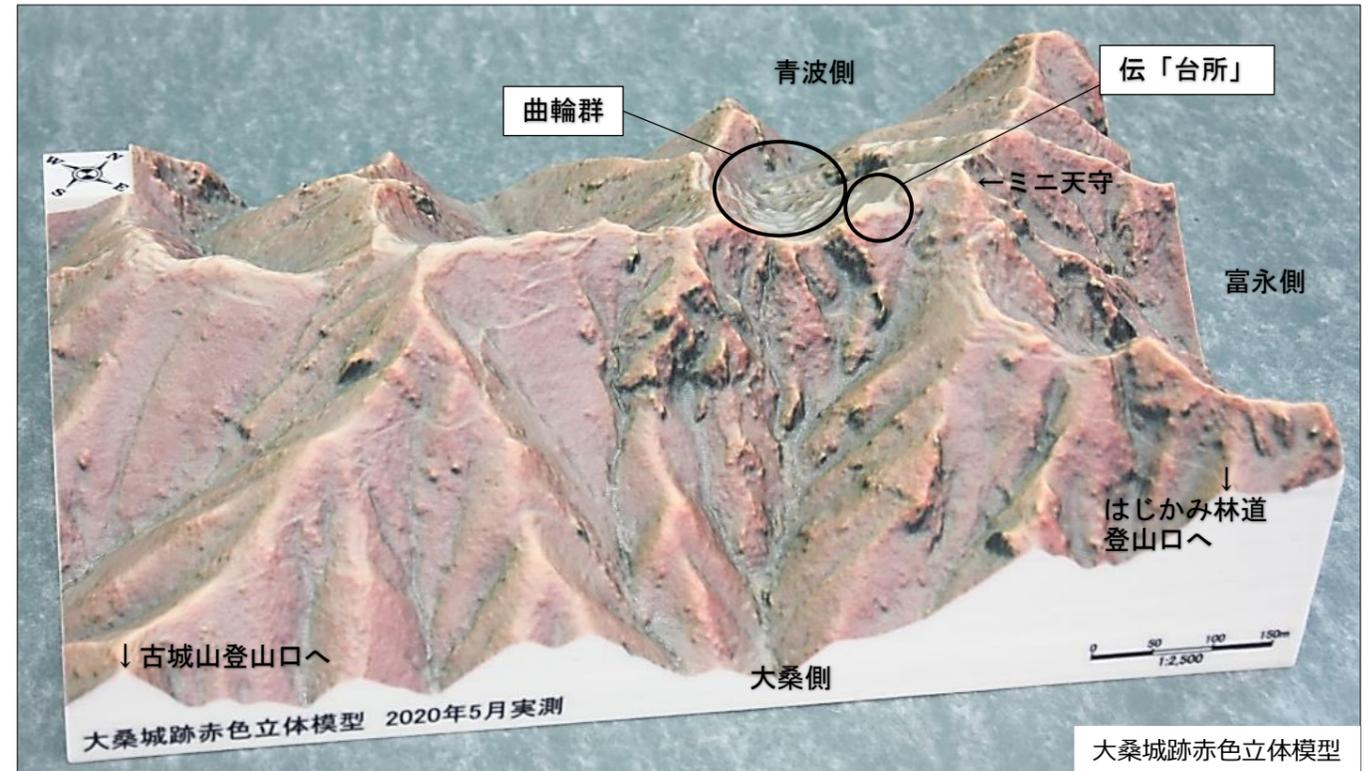
令和3年度

大桑城跡発掘調査 現場公開資料

大桑城は、美濃国の守護土岐氏が、1535年に築き上げた戦国時代の山城です。

山県市では、大桑城跡での発掘調査を令和2年度から実施しており、今年度は「台所」と呼ばれる場所と曲輪群(くるわぐん)を調査しました。

○ 発掘調査の位置



○ 大桑城の位置



○ 調査の概要

- 調査場所 : 伝「台所」、曲輪群 (上記参照)
- 調査期間 : 令和3年9月13日～12月3日 (予定)
- 調査面積 : 約90㎡

